

国際再生可能エネルギー機関（IRENA）第13回総会 東南アジア地域におけるエネルギー移行セッション 高木外務大臣政務官発言

議長、ありがとうございます。まずは、IRENAが東南アジアという地域に焦点を当てて、エネルギー移行の課題についての議論の機会を設けたことに感謝いたします。

まず、東南アジアの特徴として、

1 経済成長の著しい地域であり、世界経済全体にとってのエンジンである。

2 まだまだ経済成長の果実を必要としている人々が多数おり、成長が妨げられるべきではない。

3 人口が極めて多い

4 島しょ、山地や三角州など、複雑な地形から構成される地理的な特徴、が挙げられます。

東南アジア諸国は、経済成長に必要な廉価なエネルギーの安定供給を確保し、一方で脱炭素化を進めていくといった難しい舵取りが求められております。

その中でも、それら各国が野心的な目標を立てて取り組んでいることに敬意を表します。ただし、エネルギー移行に際して直面する課題は欧州等の場合とは違った難しさもあり、IRENAからもテラーメイドな支援が求められています。

エネルギーの、「安定供給」、「廉価さ」、そして「クリーン」の3つを高い次元で同時に達成するという、地域に適したエネルギーミックスを実現することが重要であると考えます。しかし、これら3つを同時に達成するのは時に困難であり、置かれた状況に応じて、優先順位を付ける必要性がでてくると考えます。

例えば、東南アジアの中には、未だ、電気の無い中で薪の火で暮らすような人々もいます。そうした人々にとってまず必要なのはエネルギーへのアクセスを確保すること、すなわち、廉価かつ安定的なエネルギーを供給することです。これは人道上の要請です。

そのために、場合によっては、まずは石炭火力発電も活用してでも電気を届けるという対応が求められることもあるでしょう。また、安定的な電力供給がない故に、工場や家庭で排出対策がされていない簡易な自家発電機が活用されていることが少なくありません。このような場合も、電力の安定供給の実現がまず必要であり、自家発電が必要なくなれば、脱炭素化にも資します。

その際、可能な限り排出削減をするために高効率な技術を活用することが有益であり、実質的な脱炭素への道の一つとなるでしょう。日本は支援を惜しみません。

一方、地理的な特徴に対応して3つの要素を満たす形で、再生可能エネルギーの導入により、クリーンかつ安定的な供給ができる場合もあるでしょう。

例えば、島しょ部において大規模な発電供給網の構築が難しい地域が存在します。そのような地域で、簡易な太陽光発電を導入することで、廉価かつクリーンな供給が行えるようになります。

日本は島国として、その特性に応じたエネルギー移行の知見、また、マイクログリッド等の再生可能エネルギー導入に資する技術の面で、東南アジアにおけるエネルギー移行を支援していく決意です。

IRENA とともに、これらの議論を加速していきたいと考えます。